

(1)

市長公室の目標

感動と笑顔があふれる 心豊かなまちにします

市民の Well-being を高めるため、バランスのとれた総合的な政策を企画・立案するとともに、人口減少対策や健康寿命の延伸など、市全体で取り組まなければならない施策について、関係部局と連携しながら推進していきます。

また、市民のニーズの把握と的確な情報発信につとめるとともに、複合施設の整備や文化芸術の振興、さらには生涯学習機会やスポーツ環境の充実などの重要プロジェクトに取り組み、人と人が緩やかにつながり、感動を共有できる笑顔あふれるまちを目指していきます。

【実現に向けて】

企画政策課

- 市民と行政がまちづくりの方向性を共有することができるようにしていきます。
- 白河に「住みたい」「住み続けたい」と思う人を増やしていきます。

地域拠点整備室

- 豊かに住み続けられる「まちの拠点」として、人と人がつながり、訪れるみんなが笑顔になるような複合施設を目指します。

秘書広報課

- 市民の市政への参画と協働の基盤となる広報広聴を目指します。
- 友好都市間で歴史や文化を学び合い、市の魅力向上につなげます。

文化振興課

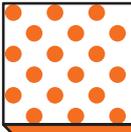
- 市民が文化芸術を通して地域社会とのつながりが持てるようにします。

生涯学習課

- いつでも心豊かに学び、充実した人生を送ることができるようにします。
- 生涯を通して様々な学習ができるまちを目指します。(公民館)

スポーツ振興課

- いつでもスポーツに親しみ、生きる喜びを実感できるようにします。



企画政策課

めざすまちの姿①

市民と行政がまちづくりの方向性を共有することができるようにしていきます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

人口減少や少子高齢化が進む中、将来にわたり持続可能な地域社会を維持していくためには、市民と行政が一体となって地域が抱える課題の解決に取り組んでいく必要があります。

このことから、地域課題や市が目指すべき将来像を示し、市民や企業、そして各種団体とまちづくりの方向性を共有していくことが重要だと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 地域を取り巻く環境が目まぐるしく変化していることから、市政運営の指針や市の国土利用計画など市全体に関わる総合的な計画等において、地域の将来を見据えたまちづくりの方向性を示していく必要があります。
- 地域の将来を見据えたまちづくりの方向性を示すにあたっては、市の現状や課題を明らかにするとともに、市民のニーズを的確に捉えていく必要があります。
- 市民や企業、各種団体とまちづくりの方向性を共有するため、各種計画等について広く周知していく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

総合的な企画及び調整の実施

- 地域の将来を見据えたまちづくりの方向性などを市民と共有するため、中期的な市政運営の指針や白河市過疎地域持続的発展計画、白河市国土利用計画などを適切に管理運営するとともに、広く市民に周知していきます。
- 市政運営の指針に基づく各施策の達成状況などを把握するため、「幸福度」など市民が身近に感じることができる指標を導入していきます。
- 各種計画の作成や進捗状況を確認する過程において、市民や各種団体と意見交換を行うなど、市政運営に市民ニーズを反映させていきます。



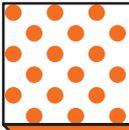
- 地域の均衡ある発展と効率的な行政運営を進めるため、課題の解決に資する国の制度を積極的に活用する一方、業務を進めるうえで支障となる法的規制等について制度改正の提案や要望などを行っていきます。
- 個性をいかした地域づくりを進めていくため、地方分権や県からの権限移譲などに積極的に取り組んでいきます。



市民ワークショップ

 関連する
計画

- 白河市行動計画ーアジェンダ 2027ー
- 白河市人口ビジョン
- 白河市教育大綱
- 白河市国土利用計画
- 公共施設個別施設計画
- 白河市みらい創造総合戦略
- 新市まちづくりプラン
- 白河市過疎地域持続的発展計画
- 公共施設等総合管理計画



企画政策課

めざすまちの姿②

白河に「住みたい」「住み続けたい」と
思う人を増やしていきます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に人口減少や少子高齢化が進んでおり、特に、本市をはじめ高等教育機関等がない地方では、若者が進学や就職を機に都市部へ転出したまま戻ってこない傾向にあるため、人口減少が加速度的に進んでいます。

このことから、豊かな自然や歴史、文化に囲まれながら心豊かな生活を送ることができる本市の暮らしやすさや魅力を発信し、多くの人に実感してもらうことで、白河に「住みたい」「住み続けたい」と思う人を増やしていきたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 本市は、首都圏へのアクセスが良く、都市的な生活も豊かな自然に囲まれた生活も可能なことから、その魅力を発信するとともに多文化共生の推進など、多くの人が暮らしやすいと感じることができる環境を整えていく必要があります。
- 人口減少や住宅の供給過多を背景とする空き家の増加は、生活環境や治安の維持に深刻な影響を及ぼすことから、適正な管理や利活用の促進を図っていく必要があります。
- 本市で暮らす人たちが、住み続けたいと思えるよう、また、進学等を機に本市を離れた人が、将来は戻りたい、離れていても関わり続けたいと思えるよう、地域に対する愛着や誇りを醸成していく必要があります。
- 人口減少が進む中、一つの自治体でフルセットの住民サービス^{*}を提供していくことが困難になってきていることから、自治体間や官民との連携、外部人材の活用などを進めていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

移住定住の推進

- 「白河市移住・定住ポータルサイト」などを活用し、本市の魅力や暮らしやすさ、移住に必要な情報を発信するとともに移住検討者に寄り添った相談体制やニーズに応じた支援制度を整えていきます。
- 本格的な移住を前に、本市の魅力である都市的な生活と豊かな自然に囲まれた生活との両方を体験できる環境を整えていきます。



- 移住者や市民が気軽に集い、新たなコミュニティを形成することができる環境を整えていきます。
- 移住や定住の受け皿の一つとなる行政分譲地の販売を促進していきます。

空き家対策の推進

- 空き家の利活用を促進するため、所有者や利活用希望者を対象としたセミナーを開催するとともに、解体や改修に対する支援を充実させていきます。
- 空き家の売却などを希望する所有者と、空き家の利用を希望する方のマッチングを図るため、空き家バンクを充実させていきます。

地域に対する愛着や誇りの醸成と知名度の向上

- 市民団体などと連携しながら、進学や就職を控える高校生が地域について知り、地域の人とつながることができる環境を整えていきます。
- 本市の知名度を高めるとともに本市を訪ずれる人や関わりを持つ人を増やしていくため、大学生などが白河をフィールドに活動することを支援していきます。
- ふるさと納税などを活用し、本市の魅力的な施策や特産品を発信していきます。

多様な交流と連携による持続可能なまちづくり

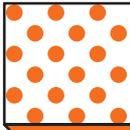
- しらかわ地域定住自立圏構想において新たな連携事業を模索するとともに、生活圈や経済圏が同じ栃木県北部地域とも連携を進めていきます。
- 民間や外部人材の知見やノウハウをいかすため、包括連携協定や地域おこし協力隊などの制度を活用していきます。
- 市民と外国人との交流機会を設けるとともに、外国人が地域コミュニティに参加しやすい環境づくりを進めていきます。
- 中学生海外派遣事業など他国の文化に触れ合う機会を設け、国際社会に通じる人材を育成していきます。
- 姉妹都市及び観光で交流のある台湾との交流促進に加え、新たな都市（英語圏の都市）との交流を模索していきます。
- 本市に縁のある首都圏在住の人たちで組織されている「東京ふるさと会」などの活動を支援していきます。

関連する計画

- 白河市シティプロモーション基本方針
- しらかわ地域定住自立圏第2期共生ビジョン
- 白河市空家等対策計画

用語解説

※ フルセットの住民サービス：市町村が、教育、福祉、文化など公共サービス提供のための施設等をすべて自らが整備し運営していこうとする考え方のこと。



地域拠点整備室

めざすまちの姿

豊かに住み続けられる「まちの拠点」として、人と人がつながり、訪れるみんなが笑顔になるような複合施設を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

地方を取り巻く情勢は、人口減少・少子高齢化や、それに伴う活力衰退などに歯止めがかからず、なお一層深刻化しています。これらの諸課題に対応し、魅力ある住みやすいまちづくりの実現のためには、まちづくりの主役である市民一人ひとりが「健康」で、様々な活動を展開し、まちの活力を高めていくことが求められています。また、日々の充実した暮らしに欠かせない安定した仕事を持つことや、安心して子どもを産み育てられること、生きがいを持ちながら心身ともに健康に過ごせることなどが大事であり、行政が、円滑な市民生活を後押しする必要があります。

加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の生産性・効率性優先の考え方から、健康（増進）、余暇、仕事と家庭の両立を重視する気運が一層高まっています。今後、いわゆる新しい生活様式が浸透し、オンラインでのコミュニケーションが一定程度定着しても、人と人との直接的なコミュニケーションの大切さは変わることなく、むしろ制約を受ける分、その重要性が増しています。

このため、「健康増進」・「子育て支援」・「生きがいづくり」の機能を柱とした居心地の良い空間を整備し、「人と人がつながり」、「誰もが気軽に立ち寄れる」、「多くの市民が集い、笑顔になる」など、多くの市民が「憩い、楽しむ場」となるよう複合施設の整備を進めます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 少子高齢化が進行し、介護、医療など医療保険制度の維持が懸念される中、心身ともに健康で自立して活動し生活できる期間、いわゆる健康寿命を延ばしていく必要があります。
- 女性の社会進出や経済面などの理由から、小さな子どもがいる世帯でも共働きの割合が高まっていることなどから、仕事と生活の両立や安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが求められています。
- 豊かな生きがいのある人生を送るためには、生涯にわたって学習に親しむことが重要であり、住み慣れた地域で文化活動やボランティア活動などを通して、仲間との親睦や多世代



との交流を図る必要があります。また、市民が社会を構成する一員として、長年培ってきた経験・知識・能力をいかした社会活動や生産活動に貢献することが、活力ある地域の実現や生きがいつくりの有効であり、そうした機会を拡大していくことが重要です。

- 価値観の変化に伴い、市民ニーズの多様化が進んでいることから、市民から求められる行政サービスの分野の拡大も考えられますが、本市の人口動態や財政状況などを踏まえると、行政サービスの拡大には限界があるため、民間事業者と連携して取り組みながら対応していく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

豊かに住み続けられる「まちの拠点」の整備

- 市民会館跡地に、「健康増進」・「子育て支援」・「生きがいつくり」・「民間」・「交流」の5つの機能を取り入れた、多くの市民が憩い楽しめる場となる複合施設の整備を進めていきます。
- 行政機能との連携により、相乗効果が期待できる民間機能・サービスの導入を模索していきます。
- 子育て等によるブランクにより就職に不安がある女性の悩みを解消し、社会に踏み出す一歩を後押しできる環境を整えていきます。
- 複合施設を活動の拠点とした地域課題の解決や地域資源を活用した事業に取り組める人材づくりを進めていきます。

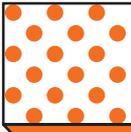


複合施設外観イメージ



関連する
計画

- 市民会館跡地利活用基本方針
- 複合施設整備基本計画



秘書広報課

めざすまちの姿①

市民の市政への参画と協働の基盤となる
広報広聴を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

現代社会では、地域の独自性や主体性が問われ、市政の課題解決に市民の参画と協働が必要とされています。そのため、市と市民が情報を共有し、信頼関係を継続することが大切です。市は、正しい情報を分かりやすく伝え、市民は、市の情報を認知することで、市政への関心や参画意欲を高めることができます。これにより、双方向コミュニケーションの充実を図り、行動変容につなげる流れをつくる必要があります。

また、多くの自治体が独自性を打ち出し、魅力を発信する動きが活発になる中、これまで以上に市外の人から選ばれる白河となるために、ブランドイメージを向上させることも重要です。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市民と情報を共有し、信頼関係を継続することが重要であるため、ターゲットを明確にしたうえで、市民が知りたい情報を効果的に伝えるなど、市の情報を分かりやすくかつ正確に発信するとともに、市政懇談会や市長への手紙などの広聴活動を行う必要があります。
- 広報紙だけでなくホームページやSNSなど媒体が多様化する中、市外の人にも意識した広報が必要です。

◆ 課題を解決するための取組み

情報ニーズの把握

- 秘書広報課に情報を集約する庁内の体制をつくります。
- 様々な行政ニーズを把握するため、住民・企業・団体・報道機関などステークスホルダー*との結びつきを強めていきます。
- 情報発信のターゲットを明確に定め、市民が知りたいと思う情報を分かりやすく効果的に発信します。



- ホームページの閲覧数やアンケート調査、市政懇談会、市長への手紙などから、広報が市の施策実現にどう貢献したか、発信した情報を市民がどう認知し、どのような行動変容が起こったかを検証します。

市外も意識した情報の発信

- 市外に向けて市の魅力を積極的にアピールします。
- 地域ブランド化を意識した情報を発信します。

広報媒体の多様化

- より多くの人に情報を届けるため、広報紙やホームページ、SNSにとどまらず、データ放送など多様な媒体を組み合わせるなど、ターゲットに合わせた発信をします。

功労者の表彰

- 市政の進展に寄与し、特に功労等があった個人や団体、住民の模範となる善行者について、公平・公正な選出で表彰し、市政への参画や協働に対する住民の動機付けを促します。



広報しらかわ

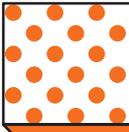


関連する
計画

- 白河市シティプロモーション基本方針

用語解説

※ ステークホルダー：企業や行政などの利害と行動に、直接あるいは間接的な利害関係がある個人や団体などのこと。



秘書広報課

めざすまちの姿②

友好都市間で歴史や文化を学び合い、
市の魅力向上につなげます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

歴史的な縁で友好都市を締結した市との交流を発展させ、相互の魅力を再発見するとともに、良い点を倣いあうことで、各市の魅力向上や交流人口の増加につなげます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 定期的に首長はじめ職員が各市を訪問し、交流を深める必要があります。
- 行政だけでなく、市民ぐるみの都市間交流を行う必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

相互訪問

- 定期的に互いの市を訪問し、歴史や文化に触れることで交流をより深いものにします。

市民間交流

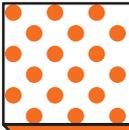
- 市民訪問団が互いの市を訪問し、歴史や文化に触れるとともに、共同で作業をしたり、宿泊したりすることで交流を深め、交流人口の増加を目指します。



戸田市市民交流



友好都市 20周年



文化振興課

めざすまちの姿

市民が文化芸術を通して
地域社会とのつながりが持てるようにします。

◇ めざすまちの姿を設定した背景と想い

生活様式の都市化や多様化に伴い、町内会をはじめとする社会組織の変容や、市民同士の結びつきが弱まっている傾向があります。コロナ禍は、こうした社会の変化をより一層顕著にし、デジタル技術の進展は利便性が向上する一方で、直接的な人間関係を築きにくくしています。

文化芸術は、多くの人と価値観や感動を共有することができ、鑑賞することや活動することで、緩やかに地域社会と関わり、人々を包摂する力があります。このため、市が様々な文化芸術に関する施策を継続していくことで、市民が文化芸術と関わることで、いきがいを見出し、人と人とのつながりを持ち、地域社会の一員として、支え合う社会になると考えています。

◇ めざすまちの姿を達成するための課題

- 誰もが文化芸術にアクセスできるように、多様性を尊重し様々な場面でのバリアフリーに務め、鑑賞の機会や活動の場面を工夫していく必要があります。
- コロナ禍により、文化芸術に携わる市民や団体の活動が停滞傾向にあるため、引き続き、文化交流館コミネスを中心とした良質な舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、文化団体の活動支援や子どもへの支援、担い手の育成が必要です。
- 地域の歴史や自然、伝統などをいかした「メイド・イン・白河の文化」を育て、市民が地域に誇りと愛着を感じられるようにするとともに、自らの文化を基盤に、姉妹都市や友好都市をはじめ、県内外、国内外と文化的な交流をしていくことが重要です。

◇ 課題を解決するための取組み

文化芸術による社会的包摂の推進

- 鑑賞の機会や活動の場面において、多種多様な作品やプログラムをバランスよく企画し、市民が文化芸術と関わり参加できる事業を展開していきます。



- 施設設備はもとより、上演内容においてもバリアフリーに取り組むとともに、障がい者や妊婦、外国人など誰もが文化活動に参加できる環境の整備を検討していきます。
- 文化交流館コミネスなどの文化施設が、市民のサードプレイス^{※1}となり得るよう、関係団体を育成するとともにワークショップなどの学びの機会を拡充していきます。

担い手の育成

- 子どものたちの鑑賞や学びの機会を充実させ、感性や情操を育むとともに、アウトリーチ^{※2}型の事業により中学校・高校の文化部の活動を支援します。
- 芸術家が一定期間市内に滞在して行う制作活動や芸術家と交流しながら行う共同事業を企画し、市民や文化団体が芸術家との関わりを持つ機会をつくり、活動の活性化や担い手の育成につなげていきます。

メイド・イン・白河の文化の育成・発信

- 狛犬やだるまのように、地域に残されている歴史や伝統、自然を基盤とする文化に光をあて、磨きをかけることで新たな付加価値を見出し、観光などと結び付け、白河の文化として内外に発信していきます。
- 音楽や演劇、文芸など市内で展開されている文化活動において、姉妹都市や友好都市をはじめとする市内外、国内外と交流を深め、関係人口^{※3}の拡大を図ってまいります。



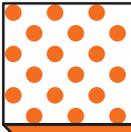
南湖写生大会



- 白河市文化芸術推進基本計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※1 サードプレイス：家庭（第1の場）でも職場（第2の場）でもない第3の居心地の良い場所のこと。
 ※2 アウトリーチ型：ホール外で実施するワークショップ、等の体験型事業やミニコンサート等のこと。
 ※3 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。



生涯学習課

めざすまちの姿

いつでも心豊かに学び、
充実した人生を送ることができるようにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

「人生 100 年時代」に向けて社会が大きな転換点を迎えるなかであって、生涯学習の重要性は一層高まっています。

市民一人ひとりが生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現のための取組みを進めていきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 「人生 100 年時代」に向けて、ライフステージに合わせた学びの必要性が高まるとともに、高齢者の健康に関する生涯学習に関心が高まっており、ライフステージに応じた学びの機会を提供する必要があります。
- 市民の生きがいがづくりや生涯学習へのニーズの高まりに応じていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

ライフステージに応じた学びの機会の提供

- (子ども・青少年の学び) 音楽・美術・書道・演劇等の芸術文化やスポーツなどに親しむ機会の創出をはじめ、多様な体験や学習ができる機会を提供していきます。
- (成人の学び) 現代的・社会的課題について考え、課題解決につながる学習機会を提供していきます。
- (高齢者の学び) 高齢者が年齢にとらわれることなく、自由かつ主体的に活動し、自立した生活を送ることができるよう、心身の健康づくり、生きがいがづくり、社会参加につながる学習機会を提供していきます。



生涯学習拠点の充実

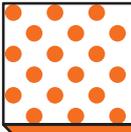
- 複合施設をはじめとした生涯学習拠点の充実を図り、幅広い世代の市民活動が、より活性化するための魅力的な空間となるよう関係各所とともに取り組んでいきます。
- 社会教育をはじめ、文化やスポーツ、レクリエーションやボランティアといった活動など、新しいことにチャレンジできるよう努めていきます。



白河市二十歳の集い



- 第3次白河市生涯学習推進計画



公民館

めざすまちの姿

生涯を通して様々な学習ができるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

少子高齢化の進展や価値観の多様化など、社会が急激に変化する中、公民館で活動する市民の固定化や、高齢化が進んでいます。

公民館は、社会の変化、価値観の多様化に対応するため、市民のニーズを的確に把握し、様々な年代を対象に魅力ある講座・教室を主催します。また、市民が様々な活動を通じ、健康づくりや生きがいづくりができる場として、快適に利用できる環境を提供したいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- すべての市民が快適に利用できる環境を整備する必要があります。
- インターネットやスマホ等から様々な情報を容易に得られる社会となっていることから、多様化した価値観に対応した主催事業を企画・開催していく必要があります。
- 社会情勢が変化する中、市民が生きがいをもって生きていくため、自らの学びの成果を地域に還元していけることが重要です。

◆ 課題を解決するための取組み

生涯学習機会の提供

- 市民が求める主催講座・教室を開催するとともに、社会情勢の変化を捉えた講座を提案していきます。
- 自分の人生を切り拓き、対話や協働を通じて社会や地域をけん引することができる人材を育成する、ボランティア講座を開催していきます。

学習環境の整備

- 子どもから高齢者、障がいを持つ人など、すべての市民が快適に利用することができる施設となるよう、環境を整えていきます。



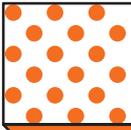
レディースセミナー



習作展 絵手紙愛好会



- 白河市複合施設整備基本計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画



スポーツ振興課

めざすまちの姿

いつでもスポーツに親しみ、
生きる喜びを実感できるようにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

少子高齢化の進行や生活習慣病の増加、地域コミュニティの衰退など、現代社会は様々な課題に直面しています。

スポーツには、心身の健康の保持増進のみならず、人や地域のつながりを生み出すなど、人生をより豊かにするとともに、地域コミュニティを再生する力があります。そのため、市民がスポーツに親しめる様々な機会を提供し、スポーツを通じた交流の場の創出を図っていく必要があります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市民の生きがいづくりやスポーツに対するニーズに応じていく必要があります。
- スポーツは適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防につながり、健康寿命の延伸や医療費抑制への貢献が期待されることから、ライフステージに応じたスポーツの推進が必要です。
- 多種目、多志向性をもっている総合型地域スポーツクラブ*の支援や、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成など、スポーツ環境を整備する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

ライフステージに応じたスポーツの推進

- (子どものスポーツ) 子どもの運動能力の向上を図るため、ジュニアスポーツ教室を開催します。また、子育て中の親子を対象に、子どもが運動やスポーツを体験する大切さと親子で楽しく実践できる運動やスポーツについて学ぶ教室等を開催します。
- (成人のスポーツ) 若者や働き盛り世代が仕事帰りなどにスポーツに取り組めるよう、夜間の教室を開催し、スポーツ活動の推進を図ります。
- (高齢者等のスポーツ) 高齢者や障がいのある人なども気軽に参加できるスポーツ教室・大会等を開催し、スポーツ活動の推進を図ります。また、障がいのある人とない人との交流が



図られるよう、障がいのある人への理解を深める啓発活動や障がい者団体等との連携強化に努めます。

競技スポーツの向上

- スポーツ関係団体と連携し、各種スポーツ教室・しらかわスポーツ祭を開催するなど、スポーツに親しむ機会を創出します。
- 競技力の向上や競技人口の拡大につなげるため、レベルアップ型スポーツ教室などを開催します。

誰もが利用しやすいスポーツ施設等の整備と利用促進

- 運動公園内における社会体育施設の改修及び更新については、施設長寿命化計画に基づき、古くなった施設の改修等を進めるとともに、市民が安心・安全に活動できる環境の整備に努めます。

スポーツを支える団体や人材等の充実

- 子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々が集う総合型地域スポーツクラブの設立を支援します。
- 地域住民のスポーツ活動において、実技指導や助言、地域組織の育成などの役割を担うスポーツ指導者に対し、正しい知識に基づく指導ができるよう必要な支援を行います。



しらかわスポーツ祭ポッチャ競技

関連する計画

- 第2期白河市スポーツ推進計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※ 総合型地域スポーツクラブ：幅広い世代の人々が各自の興味関心・競技レベルに合わせ、様々なスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブのこと。